

2013 年度大学入試センター試験の主な変更点について

大学入試センターは、高校教員対象として、7月に全国7ヶ所で「平成25年度大学入学選抜 大学入試センター試験 説明協議会」を開催しているが、その中で前年度に生じた地歴、公民の問題冊子配布漏れといったトラブルに対する改善のためにいくつかの変更が示されたので、受験生に関わる変更点とその注意点についてまとめてみた。

【1】「地歴、公民」の問題冊子の形態の変更

- 出願時の受験教科の登録内容にかかわらず、全ての受験生にパッケージ化された「地歴と公民の2冊」が配布される。
⇒「地歴1科目+公民1科目」の受験を希望する受験生に対して、円滑な問題冊子配布が可能になり、配布漏れといったトラブルの防止になる。
- 受験生は、試験当日は登録された受験科目数にしたがって地歴と公民を合わせた10科目の中から最大2科目の解答科目を選択できる。
⇒前年度は、10月初旬の出願時点で、多くの文系受験生は「地歴2科目」か「地歴1科目+公民1科目」か、多くの理系受験生は「地歴1科目」か「公民1科目」という選択パターンを決める必要があったが、1月のセンター試験本番まで志望校や学力の伸びを見ながら、地歴と公民を合わせた10科目の中から最終的な受験科目を決定できるようになった。

【2】受験教科の登録方法の変更

- 「地歴、公民」については、1つの教科のみを受験する場合も2つの教科を受験する場合も、「1教科」として登録し、その上で受験科目数のみを選択して登録する。

【昨年度】

次の6つのうちから1つを選択して登録
A・・・地理歴史のみ1科目受験
B・・・地理歴史のみ2科目受験
C・・・公民のみ1科目受験
D・・・公民のみ2科目受験
E・・・地理歴史1科目、公民1科目を受験
F・・・地理歴史、公民どちらも受験しない



【今年度】

次の3つのうちから1つを選択して登録
A・・・1科目受験
B・・・2科目受験
X・・・受験しない
※例えば、「A」を選択した場合は、試験当日に、地理歴史と公民を合わせた10科目の中から自由に1つの解答科目を選択することができます

- 全教科で、「受験しない」の選択記号を「X」に統一
⇒煩雑だった地歴、公民の受験教科登録が簡素化された。また、「受験しない」の選択記号を「X」に統一したことで、誤記入の防止につながる。

【3】検定料の計算方法の変更

- 地歴と公民を合わせて「1教科」として数えて、検定料を算出する。例えば、国語、世界史、政治・経済の3科目を受験する場合は、昨年度は3教科で18,000円、今年度は2教科で12,000円となる。

【4】監督要領の改善

- 試験進行について、これまでの監督者の口頭による指示が中心だったが、口頭説明の一部を問題冊子の表紙等に記載することにより、受験生自身が指示文を読み、確認する方法を導入する。
⇒受験生は、今まで以上に問題冊子の表紙に記載された注意事項を熟読して、内容をよく理解して、それに従う必要がある。読んだものとみなされるので、今までよりも自己責任が重くなる。

【5】「地歴、公民」及び「理科」2科目受験者試験室における中間時間

- 地歴、公民および理科の試験時間における第1解答科目と第2解答科目の間の10分間は、答案回収、解答用紙配布のための時間であり、休憩時間ではなく、トイレ等で一時退出はできないことを明示。
⇒受験生は、2科目連続受験の際にはあらかじめトイレ等は済ませておくことが必要。

【6】受験特別措置の事前申請期間の変更

- 受験特別措置の審査結果を大学入試センター試験出願前に通知できるように、出願前申請の開始時期を昨年より1月早め、8月1日（水）～9月28日（金）に変更（昨年は9月1日～9月30日）。また、9月5日（水）＜消印有効＞までに申請すれば、受験特別措置の可否を9月下旬頃に連絡される。

【7】受験教科等の登録内容の訂正について

- 昨年度は出願後の受験教科等の登録内容の変更は一切できなかったが、今年は志願票への記入誤り等により受験教科等の訂正が必要になった場合に、11月9日（金）＜消印有効＞までに届け出があれば、登録内容の訂正が可能になった。
⇒誤記入により志望大学が受験できなかつたり、予定していた受験科目の変更を余儀なくされたりしたケースが救済される。なお、確認はがき（出願受理通知）を11月5日（月）までに届くように送付するとされているので、最悪の場合には5日間しか確認期間がないので、受験生は確認はがきの到着を必ず確認して、到着後ただちに記載内容に誤りがないかをチェックする必要がある。